



▲脳トレゲームを楽しむ「あじさいサロン」の活動風景(大野公民館)



高齢者サロンの普及活動をもっと積極的に

高松 幸雄 議員

環境づくりを進めていきたい

健康福祉部長

一人暮らしの高齢者や家に閉じこもりがちな高齢者など、寂しさや不安を抱えている高齢者が井戸端会議やたまり場で、そこに住む人たちが自然に顔を合わせることで、できるサロンが認知症の予防に効果があると考えられる。市内のサロン活動の現状と活動内容及び団体の推移は。

健康福祉部長 社会福祉協議会によると、地域で活動をしている団体は30団体で、約650人が参加している。活動内容は健康体操、交流会、趣味活動などを実施しており、昨年より5団体増えた。登録団体には助成金が支給されるが、どのようなものか。

健康福祉部長 住民による福祉活動の支援を目的とした社会福祉協議会の小地域福祉活動支援事業で、1グループ当たり年額7万円を上限として助成される。請求の方法は実施報告書を提出し、請求をする。

この助成金は飲食、事務用品、清掃道具などは対象外で、報告書の記入や提出が面倒など不満の声があるが、活動に関する対象経費の内容や報告書の提出にどのような決まりがあるのか。

健康福祉部長 平成27年4月に助成金の上限を年額6万円から7万円に増額し、対象となる経費も消耗品を追加した。実施報告書は申請がしやすくなる見直しをした。

や学年下校をし、1人で登下校をしない方法を実施している。また、保護者やスクールガードのボランティアによる見守りや付添いも実施している。通学路も安全点検や見直しを実施し、通学の安全確保に努めている。

高齢者サロンのあり方について市の考えは。

教育部長 行事によりやむを得ず1人下校となる児童がいた場合は、先生が付添って下校するなど安全確保に努めている。

健康福祉部長 高齢者の状態や目的に合わせ参加できる場所の整備を進め、自主的に介護予防に取り組める環境づくりを進めていきたい。

小学校までの通学方法としてスクールバスの導入は考えられないか。

小学校通学のあり方に改善を

教育部長 小学生の通学は、4キロ以内が徒歩での適正な通学距離であると判断している。現状でのスクールバス導入は考えていない。

小学校の通学で、安全確保にはどのようなことを実施しているか。

教育部長 登校時は集団登校、下校時は一斉下校

登校、下校時は一斉下校

教育部長 登校時は集団登校、下校時は一斉下校